

学生：アフリカ（平成 14 年度～平成 15 年度）

Daniel Baheta	発表	1	Baheta, Daniel. 2003. The Effect of Formal and Basic Education on Rural Livelihood in a Settler Village in Eritrea, Case study of Gadien. 15th International Conference of Ethiopian Studies (Hamburg University, Germany, Jul. 2003).
	発表	2	Baheta, Daniel. 2002. The Effect of Formal Education on Livelihood of Rural People in Eritrea. 39th Annual meeting of Japanese Society for African Studies (Shimane University, Japan, 31 May.- 1 Jun. 2002).
分藤大翼	論文	1	分藤大翼. 2004. 「カメルーン南東部、バカ・ピグミーの精霊儀礼と音楽実践における社会的相互行為」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士学位論文).
	発表	1	分藤大翼. 2004. 「ポスト狩猟採集社会の文化変容—バカ社会における仮面文化の受容について—」日本文化人類学会第 38 回研究大会 (東京外国語大学, 2004 年 6 月).
	発表	2	分藤大翼. 2002. 「狩猟採集民バカの歌と踊りへの関与の特徴について」第 39 回日本アフリカ学会学術大会 (東北大学, 2002 年 5 月 25・26 日).
	発表	3	Bundo, Daisuke. 2002. Baka's Mode of Participation in Singing and Dancing Performances. Ninth International Conference on Hunting and Gathering Societies (Edinburgh Conference Centre Heriot-Watt University, Scotland, 9-13 Sep. 2002.).
藤岡悠一郎	発表	1	藤岡悠一郎. 2004. 「ナミビア北部における農牧民オヴァンボの樹木利用と植生の相互変化」日本地理学会 2004 年度春季学術大会(東京経済大学, 2004 年 3 月 27・28 日).
	発表	2	藤岡悠一郎. 2003. 「ナミビア北部オバンボランドにおける植生分布とその環境および人の利用」日本アフリカ学会第 40 回学術大会 (島根大学, 2003 年 5 月 31 日・6 月 1 日).
長谷川竜生	論文	1	長谷川竜生. 2002. 「チバンデが教育するもの—タンザニア・ゴゴ社会の割礼式—」『アジア・アフリカ地域研究』2 : 361-366.
	発表	1	長谷川竜生. 2003. 「農牧複合型社会における富者の現代的役割」日本アフリカ学会第 40 回学術大会 (島根大学, 2003 年 5 月 31 日・6 月 1 日).
服部志帆	論文	1	Hattori, Shiho. 2003. The Impact of the Nature Conservation Project on the Baka Hunter-gatherers in the Tropical Rainforest of Cameroon 『生活環境としてのアフリカ熱帯雨林に関する人類学的研究』(科学研究費基盤研究(A)(2)研究成果報告書). 135-152.
	論文	2	Hattori, Shiho. 2003. Relationships of the Baka Pygmies with the Forest World: Preliminary Report, <i>Paper Submitted to MINEF and WWF, Cameroon</i> . 1-41.
	発表	1	服部志帆. 2003. 「自然保護計画が狩猟採集民に与える影響—カメルーン東部州熱帯雨林におけるバカ・ピグミーの例」第 8 回生態人類学会研究大会 (神奈川, 2003 年 3 月 24・25 日).
	発表	2	Hattori, Shiho. 2003. Nature Conservation Project and Hunter-gatherers' Life in Cameroonian Rain Forest. International Workshop of 21st Century COE Program (Addis Ababa University, 21-23 Oct. 2003).
	発表	3	Hattori, Shiho. 2003. Nature Conservation Project and Hunter-gatherers' Life in Cameroonian Rain Forest. WWF / GTZ / MINEF /

			Kyoto Univ. Joint seminar (Yokadouma, Cameroon, 10 Dec. 2003).
平井將公	論文	1	平井將公. 2003.「セネガル中西部における <i>Acacia albida</i> 植生の利用・形成・変容」『生態人類学会ニュースレター』9: 10-12.
	論文	2	平井將公. 2002.「『山』空間としての須川平」『新しい地球農業へのアプローチ—タンザニア人による日本中山間地域農業の試行的研究』(平成 12 年度トヨタ財団研究助成研究成果報告書). 26-42.
	発表	1	Hirai, Masaaki. 2003. Utilization, Creation and Transformation of <i>Acacia albida</i> Farmed Parkland in West-Central Senegal. International Workshop of 21st Century COE Program (Addis Ababa University, 21-23 Oct. 2003).
	発表	2	平井將公. 2003.「木を『しつけ』する人びと: セネガル・セレール社会における <i>Acacia albida</i> 植生の維持機構」日本熱帯生態学会第 13 回学術大会 (鹿児島大学, 2003 年 6 月 14・15 日).
	発表	3	平井將公. 2003.「 <i>Acacia albida</i> の「しつけ」はなぜなくなりつつあるのか?—セネガル・セレール社会における植生の維持機構の変化—」日本アフリカ学会第 40 回学術大会 (島根大学, 2003 年 5 月 31 日・6 月 1 日).
	発表	4	平井將公. 2003.「セネガル中西部における <i>Acacia albida</i> 植生の利用・形成・変容」生態人類学会第 8 回研究大会 (神奈川県足柄上郡大井町いこいの村あしがら, 2003 年 3 月 23・24 日).
岩井雪乃	論文	1	岩井雪乃. 2004.「タンザニア・西セレンゲティ地域における自然保護政策と住民の生活実践の変容」京都大学大学院人間・環境学研究科博士論文
	発表	1	岩井雪乃. 2003.「生活における動物との距離—タンザニア・西セレンゲティの自然保護政策にともなう生活実践の変容」第28回環境社会学会セミナー(京都精華大学, 2003年12月14日).
市野進一郎	論文	1	Sussman, R.W., O. Andrianasolondraibe, T. Soma, and S. Ichino. 2003. Social behavior and aggression among ringtailed lemurs. <i>Folia Primatologica</i> 74 (3) : 168-172.
	論文	2	Koyama, N., M. Nakamichi, S. Ichino, and Y. Takahata. 2002. Population and social dynamics changes in ring-tailed lemur troops at Berenty, Madagascar between 1989-1999. <i>Primates</i> 43 (4): 291-314.
	論文	3	市野進一郎. 2004.「マダガスカル、ベレンティ保護区におけるワオキツネザルの社会生態学的研究」(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士学位論文).
	発表	1	市野進一郎. 2002.「マダガスカル、ベレンティ保護区で観察されたワオキツネザル(<i>Lemur catta</i>)の群れ分裂」日本アフリカ学会第 39 回学術大会 (東北大学, 2002 年 5 月 25・26 日).
	発表	2	市野進一郎. 2002「ワオキツネザルの社会変動」日本霊長類学会第 18 回学術大会 (東京大学, 2002 年 5 月 19 日-5 月 21 日).
金子守恵	発表	1	金子守恵. 2004.「知識資源としての土器づくり技術—エチオピア西南部アリにおける技術の伝承と創造」資源人類学総括班主催のワークショップ「資源と人間」(静岡県熱海市, 2004 年 2 月).
	発表	2	Kaneko, Morie. 2003. Forming techniques and Creativities: Pottery making in Ari, Southwestern Ethiopia. 15th International Conference of Ethiopian Studies (Hamburg University, Germany, Jul. 2003).
	発表	3	金子守恵. 2002.「土器成形技術の特質と創造—エチオピア西南部オモ系農耕民アリの土器づくり」日本アフリカ学会第 39 回

			学術大会 (東北大学, 2002 年 5 月).
川瀬 慈	発表	4	金子守恵. 2002. 「職人が保持する土器成形技術の特質とその習得過程—エチオピア西南部オモ系農耕民アリの土器づくり (3)」日本ナイル・エチオピア学会第 11 回学術大会 (岩手県牛の博物館, 2002 年 4 月).
	論文	1	川瀬慈. 2003. 「書評: Soundscapes In Kay Kaufman Shelemay ed.」『アジア・アフリカ地域研究』3: 258-261.
	発表	1	Kawase, Itsushi. 2003. Musical performance and self-designation of Ethiopian minstrels: Azmari. International Workshop of 21st Century COE Program (Addis Ababa University, 21-23 Oct. 2003).
	発表	2	Kawase, Itsushi. 2003. Musical Activities of Azmari in Gondar and Their Self-designation. 15th International Conference of Ethiopian Studies (Hamburg University, Germany, Jul. 2003).
	発表	3	川瀬慈. 2002. 「エチオピアの音楽職能民アズマリの民族誌にむけて: 予備調査報告」日本ナイル・エチオピア学会第 11 回学術大会 (岩手県牛の博物館, 2002 年 4 月 20・21 日).
近藤 史	論文	1	近藤史. 2003. 「タンザニア南部高地における在来谷地耕作の展開」『アジア・アフリカ地域研究』3: 103-139.
	発表	1	近藤史. 2002. 「タンザニア南部高地における谷地耕作の農法改変—化学肥料の利用—」日本アフリカ学会第 39 回学術大会 (東北大学, 2002 年 5 月 25・26 日).
丸山淳子	論文	1	丸山淳子. 2004. 「命をさがす人びと—再定住地の内と外の暮らし」田中二郎・佐藤俊・菅原和孝・太田至編 『遊動民 アフリカの原野に生きる』昭和堂, 249-267.
	論文	2	Maruyama, Junko. 2003. The Impacts of Resettlement on Livelihood and Social relationships among the Central Kalahari San, <i>African Study Monographs</i> 24(4): 223-245.
	論文	3	Maruyama, Junko. 2002. The Human Impact, <i>Cultural Survival Quarterly</i> 26(1): 27-28.
	発表	1	Maruyama, Junko. 2002. Resettlement, Livelihood and Social Relationships among the Gui and Gana in Central Kalahari. 9th International Conference on Hunting and Gathering Societies (Heriot-Watt University, Edinburgh, 9-13 Sep. 2002).
	発表	2	丸山淳子. 2002. 「再定住後のグイ/ガナ・サンの社会関係—居住様式と食物分配の分析から—」日本アフリカ学会第 39 回学術大会 (東北大学, 2002 年 5 月 25・26 日).
森下敬子	論文	1	森下敬子. 2002. 「エチオピアにおける NGO 活動の変遷」『JANES ニュースレター』11: 26-28.
	発表	1	森下敬子. 2002. 「アジスアベバの在来互助組織と NGO: 開発におけるあらたな関係を求めて」日本ナイル・エチオピア学会第 11 回学術大会 (岩手県牛の博物館, 2002 年 4 月 20・21 日).
村尾るみこ	発表	1	MURAO, Rumiko. 2003. A study on the shifting cultivation system in Kalahari woodland, Western Zambia with special reference to cassava management. International Workshop of 21st Century COE Program (Addis Ababa University, 21-23 Oct. 2003).
	発表	2	村尾るみこ. 2003. 「ザンビア西部におけるアンゴラ移民のカラハリ・ウッドランドへの適応—キャッサバ栽培の事例より—」日本アフリカ学会第 40 回学術大会 (島根大学, 2003 年 5 月 31 日・6 月 1 日).
	発表	3	村尾るみこ. 2003. 「ザンビア西部, カラハリ・ウッドランドにおける焼畑農耕体系に関する研究—キャッサバ栽培の管理を

		中心に一」日本熱帯農業学会第 93 回講演会 (日本大学, 2003 年 3 月 27・28 日).	
中村香子	論文	1	中村香子. 2004. 「『産まない性』—サンプルの未婚の青年層によるピーズの授受を介した恋人関係」田中二郎他共編『遊動民—アフリカの原野に生きる』昭和堂, 412-438.
		2	中村香子. 2003. 「牧畜民サンプルの『戦士』の旅—観光地への出稼ぎと装身具をめぐる新しい経験—」『旅の文化研究所研究報告』12: 109-131.
		3	中村香子. 2002. 「ピーズの恋人? ケニア・サンプル社会における未婚の男女の性関係と社会変容?」『アフリカレポート』35:32-36.
		4	中村香子. 2002. 「おカネはミルク、おカネは水—牧畜民サンプルのレトリック—」小馬徹編『くらしの文化人類学5: カネと人生』雄山閣, 24-46.
		5	中村香子. 2002. 「ケニア・サンプル社会における年齢体系にうめこまれた『インセスト的』な性関係」『日本 = 性研究会議会報』14(1): 43-56.
	発表	1	中村香子. 2003. 「牧畜民サンプルの『戦士』の旅—観光地への出稼ぎと社会変容に関する人類学的研究—」第 9 回旅の文化研究フォーラム(東京, 2003 年 4 月)
		2	中村香子. 2002. 「『インセスト的』な性関係に関する人類学的研究: 東アフリカの牧畜民サンプル社会におけるセクシュアリティの分析から」第 42 回日本 = 性研究会議 (東京, 2002 年 6 月 15 日)
		3	中村香子. 2002. 「ピーズの恋人—ケニア・サンプル社会における未婚の男女の性関係と社会変容—」『アフリカレポート』35:32-36, アジア経済研究所
西 真如	論文	1	西真如. 2003. 「国民国家の解体とエスニシティ: 近代エチオピア社会とスルテの人びとの歴史」『アフリカ研究』63: 1-15.
	発表	1	Nishi, Makoto. 2003. Making and Unmaking of the Nation State and Ethnicity in Modern Ethiopia: A History of the Silte People. International Workshop of 21st Century COE Program (Addis Ababa University, 21-23 Oct. 2003).
	発表	2	西真如. 2003. 「国民国家の解体とエスニシティ: 近代エチオピア社会とスルテの人びとの歴史」第 40 回日本アフリカ学会学術大会 (島根大学, 2003 年 5 月 31 日・6 月 1 日).
織田雪世	発表	1	Oda, Yukiyo. 2003. Women working at hairdressing: A case study of a rapidly increasing business among women in urban Ghana. International Workshop of 21st Century COE Program (Addis Ababa University, 21-23 Oct. 2003).
小川さやか	論文	1	小川さやか 2004 「都市零細商人の経済活動における連帯と生活信条—タンザニア、地方拠点都市ムワンザ市における古着の信用取引を事例に」『アフリカ研究』64: 65-85.
	発表	1	Ogawa, Sayaka. 2003. The trade of second hand clothes in the local-mega city of Mwanza, Tanzania: With special reference to social networks of mali kauli transaction. International Workshop of 21st Century COE Program (Addis Ababa University, 21-23 Oct. 2003).
	発表	2	小川さやか. 2003. 「タンザニア地方拠点都市における古着流通に関する研究」日本民族学会近畿地区研究懇談会 (京大会館, 2003 年 3 月 15 日)

岡本雅博	論文	1	岡本雅博. 2003. 「氾濫原のロジと疎開林帯のブンダ 西部ザンビアにおける民族集団間の相互交流」『アフリカレポート』37: 28-32.
	論文	2	岡本雅博. 2002. 「東峰の村落組織」『新しい地球農業へのアプローチ—タンザニア人による日本中山間地農業の試行的研究—』(2000 年度トヨタ財団研究助成研究成果報告書) 43-53.
	論文	3	岡本雅博. 2002. 「農業の変化と多様化」『新しい地球農業へのアプローチ—タンザニア人による日本中山間地農業の試行的研究—』(2000 年度トヨタ財団研究助成研究成果報告書) 65-67.
	論文	4	岡本雅博. 2002. 「書評 坂本邦彦著『東アフリカ農耕民社会の研究—社会人類学からのアプローチ—』」『農林業問題研究』38(3): 41-42.
	論文	5	岡本雅博. 2002. 「ザンベジ川氾濫原におけるロジ社会の生業構造」『アジア・アフリカ地域研究』2: 193-242.
	発表	1	岡本雅博. 2002. 「ザンベジ川氾濫原におけるロジの生業構造」白山人類学研究会第 90 回定例会 (東洋大学, 2002 年 4 月 13 日).
	発表	2	岡本雅博. 2002. 「ザンベジ川氾濫原におけるクオンボカの祭儀—ロジ社会を考える一つの手がかりとして—」南部アフリカ研究会 2002 年度総会 (東北大学, 2002 年 5 月 24 日).
	発表	3	岡本雅博. 2003. 「ザンベジ川氾濫原におけるロジ社会の編成」日本アフリカ学会第 40 回学術大会 (島根大学, 2003 年 5 月 31 日・6 月 1 日).
	発表	4	岡本雅博. 2004. 「アフリカの農業における牛糞の利用」水と文化研究会・アフリカのエコトイレ導入を考えるワークショップ (滋賀県立琵琶湖博物館, 2004 年 3 月 18 日).
佐川 徹	論文	1	佐川徹. 2004. 「穀がもたらす豊かなくらし エチオピア西南部のダサネッチ社会におけるコーヒー利用」田中二郎・佐藤俊・菅原和孝・太田至編『遊動民 (ノマッド)』昭和堂, 393-411.
	発表	1	佐川徹. 2003. 「帝政時代の長老制—エチオピア西南部ダサネッチの事例—」日本アフリカ学会第 40 回学術大会(島根大学, 2003 年 5 月 31 日・6 月 1 日).
	発表	2	佐川徹. 2003. 「西南部エチオピアのダサネッチにおけるコーヒー利用とその歴史的背景」日本ナイル・エチオピア学会第 12 回学術大会 (高知, 2003 年 4 月 19・20 日).
	発表	3	佐川徹. 2003. 「西南部エチオピアのダサネッチにおけるコーヒー利用とその歴史的背景に関する研究」日本民族学会近畿地区研究懇談会 (京大会館, 2003 年 3 月 15 日).
坂井紀公子	発表	1	坂井紀公子. 2002. 「マチャコス市の公設マーケットにおける業務規定の形成過程—ジャガイモ流通業を事例に—」日本アフリカ学会第 39 回学術大会 (東北大学, 2002 年 5 月 25・26 日).
佐藤靖明	発表	1	佐藤靖明. 2004. 「ウガンダ中部ブガンダ地域におけるバナナの栽培・利用・分類」第 9 回生態人類学会研究大会(滋賀, 2004 年 3 月 20・21 日).
	発表	2	佐藤靖明. 2004. 「バナナの民族植物学的研究—ウガンダ中部ブガンダ地域における栽培・利用・分類」日本民族学会第 5 回近畿地区研究懇談会・修士論文発表会 (国立民族学博物館, 2004 年 3 月 13 日).

四方かがり	論文	1	Shikawa, Kagari. 2004. Sustainable Plantain Production by Shifting Cultivation in the Secondary Forest of Southeastern Cameroon. 市川光雄編『生活環境としてのアフリカ熱帯雨林に関する人類学的研究』(平成 12 年度 平成 15 年度科学研究費補助金研究成果報告書) 99-106.
	論文	2	Shikata, K., Y. Matsushita, E. Nawata, and T. Sakuratani,. 2003. Effect of Intercropping with Maize on the Growth and Light Environment of Cowpea. <i>Japanese Journal of Tropical Agriculture</i> 47 (1): 17-26.
	発表	1	Shikata, Kagari. 2003. Sustainable Plantain Production by Shifting Cultivation in the Secondary Forest of Southeastern Cameroon. WWF / GTZ / MINEF / Kyoto Univ. Joint seminar (Yokadouma, Cameroon, 10 Dec. 2003).
	発表	2	四方篤. 2003. 「カメルーン東南部熱帯雨林の焼畑農業におけるプランテイン・バナナ栽培」日本熱帯農業学会第 93 回講演会(日本大学, 2003 年 3 月 27・28 日)
島 隆一	発表	1	島隆一. 2004. 「アフリカにおけるローカルラジオの社会的影響～ブルキナファソ中部サボネ村の事例より～」平成 15 年度・日本民族学会近畿地区懇談会修士論文発表会(国立民族学博物館, 2004 年 3 月 13 日).
白石壮一郎	論文	1	白石壮一郎. 2004. 「パートタイムの牧夫たち: ウガンダ東部、山地農耕民サビニの放牧キャンプから」田中二郎・佐藤俊・菅原和孝・太田至編 遊動民(ノマッド)—アフリカの原野に生きる』昭和堂, 687-709.
	発表	1	白石壮一郎. 2003. 「ウガンダ東部、山地農耕民サビニにおける共同労働の形態とその変遷」生態人類学会第 9 回学術大会(静岡, 2003 年 3 月).
西崎伸子	発表	1	西崎伸子. 2003. 「アフリカの野生動物保護における合意形成: エチオピアの事例」第 28 回環境社会学セミナー(京都精華大学, 2003 年 12 月 14 日).
	発表	2	Nishizaki, Nobuko. 2003. How Local People Take Different Attitudes toward Conservation Policy: A case of Mago National Park, Ethiopia. International Workshop of 21st Century COE Program (Addis Ababa University, 21-23 Oct. 2003).
	発表	3	Nishizaki, Nobuko. 2003. The Role of Community in Wildlife Conservation: Natural Resource Use and Management by Ari people neighboring to Mago National Park. 15th International Conference of Ethiopian Studies (Hamburg University, 18-19 Jul. 2003).
鈴木郁乃	発表	1	鈴木郁乃. 2004. 「農村における学校教育と生業活動の関係: エチオピア西南部アリの事例から」第 13 回日本ナイル・エチオピア学会研究大会(滋賀, 2004 年 4 月 18 日).
安岡宏和	発表	1	安岡宏和. 2004. 「カメルーン熱帯雨林におけるバカ・ピグミーの長期狩猟採集行(モロンゴ)」生態人類学会(大津, 2004 年 3 月 20・21 日).

研修員（平成 14 年度～平成 15 年度）

亀井伸孝	論文	1	亀井伸孝. 2004. 「アフリカのろう者 (5) ろう者たちのアメリカ観」 『手話コミュニケーション研究』 51: 55-62.
	論文	2	亀井伸孝. 2003. 「アフリカろう教育の父フォスター」 『アフリカレポート』 36 pp. 36-39.
	論文	3	亀井伸孝. 2003. 「アフリカのろう者 (4) 外來手話をめぐる論争」 『手話コミュニケーション研究』 50: 44-53.
	論文	4	亀井伸孝. 2003. 「アフリカのろう者 (3) アフリカにもたらされた外來手話」 『手話コミュニケーション研究』 49: 58-65.
	論文	5	亀井伸孝. 2003. 「アフリカ諸国のろう者によるろう教育事業」 『アジ研ワールド・トレンド』 96 pp. 35-38.
	論文	6	亀井伸孝. 2003. 「アフリカのろう者 (2) アフリカで話されている手話」 『手話コミュニケーション研究』 47: 50-55.
	論文	7	亀井伸孝. 2003. 「人類学は『文化生物学』のパートナーたりうるか: 書評 『サルとすし職人』」 『京都人類学研究会ニュースレター』 4: 11-13.
	論文	8	亀井伸孝. 2002. 「アフリカのろう者 (1) アフリカの国々とうろう者」 『手話コミュニケーション研究』 46: 26-32.
	論文	9	亀井伸孝. 2002. 「小さな狩猟採集民: Baka のこどもの生業活動」 『生態人類学会ニュースレター』 8: 12-13.
	論文	10	Kamei, Nobutaka. 2002. A cultural anthropological study on the sign languages and the Deaf community in the Republic of Cameroon. Abstract of the field research in 2002 (カメルーン全国ろう者協会報告書).
	論文	11	Kamei, Nobutaka. 2002. A cultural anthropological study on the sign languages and the Deaf community in the Republic of Cameroon. Report of the preliminary research 1997-98. (カメルーン共和国科学技術研究省報告書).
発表	発表	1	亀井伸孝. 2003. 「アフリカろう教育の父フォスター」 第 6 回日本聾史学会宮城大会 (仙台市茂庭荘, 2003 年 10 月).
	発表	2	Kamei, Nobutaka. 2003. The Deaf in Central Africa: Anthropological attempts in Cameroon and Gabon. International Programs and Sevrices and Sociology Department, Gallaudet Univeristy (Gallaudet University, Washington, DC. USA, 17 Sep. 2003).
	発表	3	Kamei, Nobutaka. 2003. Toward an ecological theory of play: A case of forager children in Cameroon. Workshop “Social interaction and cultural learning” (京都府精華町通信総合研究所 (CRL), 2003 年 7 月 18 日).
	発表	4	亀井伸孝. 2003. 「アフリカ都市におけるろう者の文化」 現代アフリカ都市文化研究会第 22 回例会 (京都文教大学, 2003 年 7 月 12 日).
	発表	5	亀井伸孝. 2003. 「ろう者の賛美歌: カメルーン (ビデオ作品出品)」 (京都市 VIVA LA MUSICA, 2003 年 6 月 15 日).
	発表	6	亀井伸孝. 2003. 「アフリカの手話分布: ろう者の言語人類学的研究に向けて」 日本アフリカ学会第 40 回学術大会 (島根大学, 2003 年 5 月).
	発表	7	Kamei, Nobutaka. 2002. How the Baka children of Cameroon play. 101st Annual Meeting of the American Anthropological Association. Session 0-043 “Culture and Ecology of Forager Children” (Hyatt Regency New Orleans, USA, Nov. 2002).
	発表	8	Kamei, Nobutaka. 2002. How the Baka children of Cameroon play. Pre-conference workshop of the 9th International Conference on Hunting and Gathering Societies (Edinburgh Conference Centre, Heriot-Watt University, Edinburgh, UK, 7-8 Sep. 2002).
風戸真理	論文	1	風戸真理. 2004. 「市場経済へ移行する社会における地方に暮らす人々の適応実践 モンゴル国ドルノト県バヤンドン郡の牧畜制度と教育制度の事例より」 『モンゴル研究』 21: 3-23.
	論文	2	高倉浩樹(編)・伊賀上菜穂・尾崎孝宏・風戸真理・菊田悠・佐々木史郎・藤本透子・松前もゆる・吉田睦・吉田世津子・

			渡邊日日. 2003. 「ポスト社会主義圏農村を対象とした民族誌学的調査項目リスト」 佐々木史郎(研究代表者) 『ポスト社会主義圏における民族・地域社会の構造変動に関する人類学的研究 民族誌記述と社会モデル構築のための方法論的・比較論的考察』 (課題番号: 13610372、平成 13-14 年度科学研究費補助金、基盤研究(C)(2)研究成果報告書) 235-246.
	論文	3	風戸真理. 2003. 「国家の政治経済の変化とこれに対する遊牧民の対応: モンゴル国ドルノト県バヤンドン郡の事例より」 『アジアの山地・森・草原における環境をめぐる『地方の知』と政策に関する人類学的研究』 (平成 12-14 年度科研費報告書基盤研究 (B)(1)12571019) 95-122.
	論文	4	風戸真理. 2002. 「モンゴル国の地方に暮らす人々の遊牧と定住をめぐる移動と世帯間協力: ドンドゴビ県デレン郡の一家族の生活史を中心に」 『リトルワールド研究報告』 18: 49-77.
	論文	5	風戸真理. 2002. 「家畜の個性性はいかに認識されるのか」 『生態人類学会ニュースレター』 8: 9-10.
	発表	1	風戸真理. 2003. 「モンゴル国における自然および社会環境の多様性」 ポスト社会主義圏人類学ワークショップ (キャンパスプラザ京都, 2003 年 5 月 23 日).
	発表	2	風戸真理. 2002. 「集団化期モンゴルにおける家畜に対する管理と価値付け: モンゴル国ドンドゴビ県デレン郡の事例より」 日本民族学会第 36 回研究大会 (金沢大学文学部, 2002 年 6 月 1 日・2 日).
丸尾 聡	論文	1	丸尾聡. 2002. 「バナナとともに生きる人びと」 掛谷誠編 『講座生態人類学第 3 巻 アフリカ農耕民の世界～その在来性と変容～』 京都大学学術出版会, 51-90.
	論文	2	Maruo, Satoshi. 2002. Differentiation of Subsistence Farming Patterns among the Haya Banana Growers in Northwestern Tanzania. <i>African Study Monographs</i> 23(4): 147-175.
	論文	3	丸尾聡. 2002. 「アフリカ大湖地方におけるバナナ農耕とその集約性～タンザニア北西部・ハヤの事例～」 『農耕の技術と文化』 25: 108-134.
	発表	1	Maruo, Satoshi. 2003. Intensive Banana Farming by the Smallholders in Tanzania, East Africa. International Workshop on “Multiply Useful Plants: Cultural Meaning and Economic Importance” (Kasetsart University, Bangkok, 18-19 Oct. 2003).
	発表	2	丸尾聡. 2002. 「主食用バナナの域内取引をめぐる農村社会の展開～タンザニア北西部・ハヤの事例」 日本アフリカ学会第 39 回学術大会 (東北大学, 2002 年 5 月).
中山節子	論文	1	中山節子(共著). 2002. 「ムブナはおいしくない? アフリカ・マラウイ湖の魚食文化と環境問題」 宮本正興・松田素二編 『現代アフリカの社会変動・ことばと文化の動態観察』 人文書院, 260-283.